

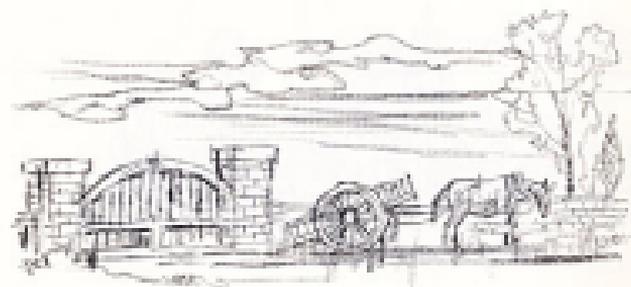
外海の聖者 **ド・ロ神父**

谷 真介 著 矢車 謙 絵



聖子・マリア

目
次



文藝口・河 文藝口

文藝口・河 文藝口

第二章 近代キリスト教の夜明け

山中の夜に 8

「かくれキリシタンの時代」をして 23

サンタ・マリアの「船中日記」 34

D・ロ神父の生いたちと文の教育 41

第三章 「旅」に出た信徒とD・ロ神父

遠別地での日々 56

神と人への愛のために 61

ロキのこと、旅の奮闘のこと 71

神学校改題とD・ロ脱陣 81

第三章 村づくり、村おこしはじまる

外海への赴任 91

新田教会の建設とD・ロ脱陣 100

マカロム、スン、フースメンジとD 108

D・ロ神父とカトリック 111

第四章 D・ロ脱陣、神の国を築き上げて

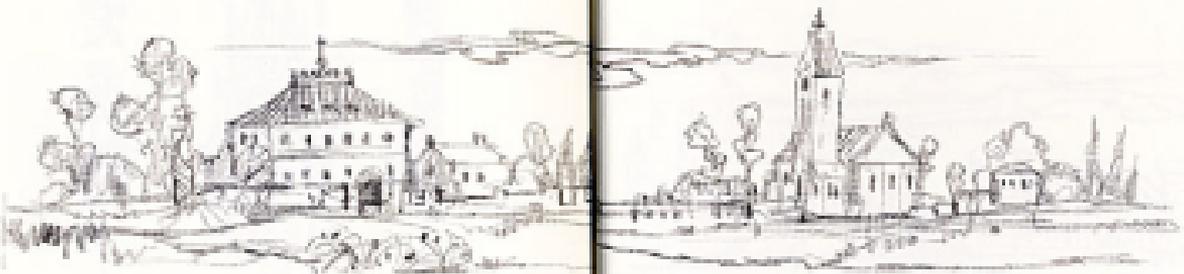
D・ロ脱陣後の開拓 114

新しいキリシタン村の 120

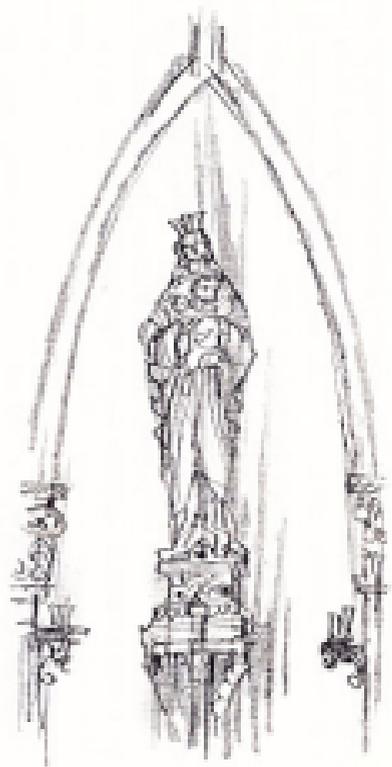
外海地方のキリシタン伝承 131

神と人、あひむねの道徳に…… 141

あとがき 171



第二章 近代キリスト教の夜明け



豪雨の夜に



一八六七年(慶応三年)七月十四日の夜のことで、長崎の浦上地方は連日の豪雨にみまわれ、この日も一日中どしどしおりの雨がふりつづいていました。

浦上村山町の村野屋平にある秘密の教会堂「マリア堂」には、連日の雨にもめげず週のおつとめを果たすために集まった信徒たち、洗礼を受ける志願者たちが、礼拝のフランシスカス(聖カタリナ)からみまかにやっていたロケーニユ神父とともに、ぐっすりねこんでいました。

雨は夜下を過ぎても、いつこうはよりやみません。ますますはげしくなっていました。ところが、午前十時ごろのことです。

ロケーニユ神父が歩んでいたおくの牛小屋の戸が、とつぜん、あわただしくひきあけられて、家裏の扉(かど)が大声をあげながらとびこんできました。

「侵入者が踏みよりました。早く、にげてくだされー」

そのことばに、ロケーニユ神父ははね返りました。すぐに別のスイタン神父の弟も聖の土に

家裏に落ちてきた種をひっかけると、取るものも取らずに裏口から家の外へ走り出しました。神父につづいては道士の左右衛門と二人の青年もとび逃しました。ロケーニユ神父が裏口から外へ逃るのと、裏口から押り手の侵入者が「お家の家」—— 秘密の教会内にたづねこむまうにおしんつてきたのと、はとんと同時でした。

「一ぱつとここで押り手たちからのがれたロケーニユ神父は、左右衛門たちに室内をさがら、まっくらをよみの壁のなかをむらりゆうで山道へかけ登っていきました。

あまりにとつぜんのこと、なにが起こったのかさっぱり分かりません。ロケーニユ神父は、でもこれは邪魔といやや流石に後手後手だけは、侵入者にはうばあれたくないと思いました。そこで、まっくらを見せ替るために、とらゆうから一人の青年を教会の近くまでひき返させました。それから、左右衛門とともに、どめくらい山のなかを歩いたでしょう。

気がつくくと、彼が白みはじめていました。ロケーニユ神父は一本木道の深い道のはずれにある信長の一入、マダダレナ湖きんという美しい温泉の小屋にたどりついて、ひと休みすることになりました。

家のなかに入った神父がすおぬれに空った服をぬぎ、かんだをよいて、おさらばが出してくれたおがんを背ようとしてたときです。まっくらをよかいに逃げていた左右衛門が、あかだたく家のなかに入つてきて、

